

<研究の目的>

- ライフステージに応じた魅力度の高いライフスタイルを描き、それを地域に展開していくための課題等について検討する。
- 検討にあたっては、「人生100年時代の到来」「世帯規模の縮小と社会関係の希薄化」「次代を支える若者の減少」「ライフスタイルの変化」の4つの変化を切り口として、変化の見通しに対する課題と対応方向について掘り下げていく予定。

社会環境の変化の見通し

主な課題

対応例

1 人生100年時代の到来

- 県民の平均寿命はこの50年で約15年伸長
(1965年 男性66.49歳、女性71.94歳 → 2015年 男性80.52歳、女性86.96歳 (山形県))
- 現在日本で生まれる子どもの半数は100歳以上生きると言われている
- 雇用慣行、勤労観が変化し、兼業・副業などの新たな働き方が求められる
- 体力的な若返りが進み、元気なシニアが増加
(10~20年前と比較して5~10年の身体的機能の若返り (全国))

⇒多様なライフコース、生涯現役、生きがい、能力発揮

①多様な働き方の拡大

多様な働き方を後押しする社会条件の整備が必要になる

②学び直しの機会の創出

生涯現役に向け、誰もが何度でも学び直しをしながら自己の能力を磨く場が求められる

③活躍の場の創出

若者や女性、シニア、障がい者など、あらゆる人の活躍を後押しするための仕組みが求められる

④健康の増進

子どもの頃からの生涯を通じた健康づくりを促進していくことが必要になる

- テレワーク・コワーキング等の多様な働き方の普及
- 高等教育機関による社会人の学び直しの提供
- 子どものライフデザイン教育
- 社会参加に係るマッチング支援
- 健康・医療データ活用による予防医療や生活習慣病対策の推進
- 「健康経営」の浸透 など

2 世帯規模の縮小と社会関係の希薄化

- 三世帯同居率はこの40年間余りで半減 (1975年34.5%→2015年17.8% (山形県))
- 単独世帯割合は増加していく見込み (2015年24.5%→2035年29.4% (山形県))
- 高齢単身者、壮年未婚者など孤立化しやすい人、子育て・介護のダブルケアを行う人など、世帯の抱える問題も複雑化する懸念
- 世帯の縮小や単身者の増加に伴って社会関係が希薄化し、地域コミュニティが衰退する懸念

⇒地域のつながりの再構築

①家族機能の低下への対応

子育てや介護等の家族のケア機能を社会で担っていくことが求められる

②孤立の解消

困難を抱え、社会的に孤立する人の自立に向けた社会的援護の充実が求められる

③子どもの貧困対策

世代を超えた貧困の連鎖を防ぐための社会的援護の充実が求められる

④地域コミュニティの再生

地域住民の主体的な支え合いのほか、企業等の多様な主体との連携による新たな手法も取り入れていく必要がある

- 子育て・介護サービスの基盤強化
- 単身者の増加に対応した多様な住まいの確保
- 地域コミュニティ再生のためのリーダー的人材や推進組織の育成 など

3 次代を支える若者の減少

- 若者層は縮小していく見込み
(20~39歳人口:2010年24万人→2040年15万人 (山形県))
- 晩婚化・晩産化により出生率は低迷している現状
(1975年14.1→2017年6.8 (山形県))
- ここ数年では新規高卒者(約1万人)の約半数が進学時に県外へ転出
(就職は県内志向が高まっている 県内就職率:2010年71.4%→2017年77.8%)

⇒若者のライフデザインの希望の実現

①若者の暮らしの基盤確保

子どもの頃からの郷土愛の醸成と、県内進学や就職、子育て等の希望を実現するための基盤の充実により、県内定着を促していく必要がある

②若者の県内回帰の促進

暮らしの魅力や働く場の情報提供により、県外進学者の県内就職を促す必要がある

③チャレンジ精神を持った若者の育成

一度は広い世界を見聞する機会を積極的に与え、山形に定住しつつ外部の人的ネットワークや情報を豊富に持った若者を育成する必要がある

- 県内での学びの拡大
- 大学や企業との連携による県外進学者の県内回帰策の強化
- 高度な専門技能等を学ぶ若者の国内外への留学支援 など

4 ライフスタイルの変化

- 心の豊かさやゆとりある生活を重視したいと考える人が増加
(物より心の豊かさを重視する人の割合:1975年36.8%→2017年62.6% (全国))
- 首都圏から地方への移住者が増加 (地方生活志向が拡大)
(2009年2,864人→2014年11,735人 (全国))

⇒山形の文化・風土の価値を活かしたライフスタイルの展開

①山形ならではのライフスタイルの提案

山形の自然や歴史、文化の固有の魅力を再評価し、それを取り入れた豊かな暮らしを「山形ならではのライフスタイル」として提案していく必要がある

②ライフスタイルの魅力の発信

山形ならではのライフスタイルを「見える化」し、県内外へ発信することによって、本県に惹きつけられる人を増やしていく必要がある

- 空き家の活用による賑わい創出
- 二地域居住等の多様な住まい方
- 移住対策の強化 など